

資料6

環境リーダー・ビジョンWG 協議会報告資料

第7回あきたスマートシティ・プロジェクト推進協議会

場所: 秋田市環境部会議室

平成24年8月30日(木)

1. WG活動報告

・ 秋田らしさの整理と具体化(秋田の将来像)

- 90歳ヒアリングの分析結果をもとに、あきたスマートシティの将来像を具体化する。
- 「スマートライフ あきた」(案)としてイラスト化することとする(8月3日WG開催)。
- 将来像には、賢く暮らす新しいライフスタイルを描く。
- 新産業、人の集い、防災、交通、教育、医療等の観点から、最新技術を取り入れながら、高齢者と若者が交じり合うにぎわいのまちをイメージする。
- 個々の賢く暮らす要素は、90歳ヒアリングより抽出した伝承される知恵や技術に支えられている様子を描く。

・ 秋田らしさの整理と具体化(昔の暮らしのイラスト化)

- 秋田市90歳ヒアリングのヒアリングメモ(20件)を分析し、戦前の自然と共に生きてきた持続可能なライフスタイルを50種類程度のコンセプトで再整理した(8月7日WG開催)。
- あきたらしさを抽出するために、宮城県の90歳ヒアリングの分析結果と比較し、秋田の特徴を明らかにした。

上記2つのイラストは11月18日のシンポジウムにて展示予定

2. 90歳ヒアリングの分析

・ 秋田における暮らし方の特徴

- 90歳ヒアリングにより以下のキーワードが秋田の特徴であると分析された(過去の宮城県調査との比較などから)。

秋田の特徴を表すキーワード

積雪(2mを越える)・冬対策
 冬囲い、雪屋、雪かき、雪の遊び
 服の重ね着、まとめ買い
 交通が不便
 ものが不足
 父・客が情報源
 家庭内で団欒
 特殊市場
 娯楽施設
 修学旅行
 移動を抑制する言い伝え
 山菜汁(23~25種類)
 水不足
 風呂少ない
 セギ
 あかり
 教育熱心
 人とのつながりを大事に

宮城と秋田を比較すると、自然と共に共生するための知恵や技術の多くは共通していた。

例えば、自然を活かす、山・川・海から食材を得る、てまひまかけてつくる保存食、水を巧みに利用する、燃料は近くの山や林から、自分でつくる、ていねいに使う、資源を使いまわす、助け合う、分け合う、家族みんなに役割がある、お金を介さないよりとり、どこまでも歩く など。